



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学附属図書館報

ISSN 1348-5458

やまなし

2006.7.1
vol.4

no. 1

contents

- 2 附属図書館施設基本計画について
- 4 利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 図書館統計
- 7 図書館トピックス

附属図書館情報リテラシー教育の実施について
今後のイベント紹介

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

附属図書館施設基本計画について

オオ トモ シ アキ
附属図書館長 大友 敏 明

「図書館が変れば、大学が変る」と言います。図書館は知の創造活動の拠点だから、その拠点が変れば、大学全体のイメージが変る、という意味だと思います。しかし、現代のインターネット時代に図書館はどう変ればよいのか。現在の図書館のどこをどう変えれば、新しい知のセンターとなりうるのか。正直言って、これは難問です。しかし案じてばかりいても前に進みませんから、その変るべき姿を求めて、附属図書館は平成16年度に「附属図書館の将来設計に関する調査研究プロジェクト」を発足させました。ここで図書館のあるべき姿を根本に立ち返って議論しました。また昨年度にはこのプロジェクトの議論を受けて、「附属図書館施設基本計画」策定ワーキンググループを立ち上げました。ここでは実際に新しいフロアプランを描きました。本報告は、その最終案の骨子をご紹介します。

新しい附属図書館の基本理念は、「大学の中で学生の「広場」となる空間の創造」としました。「広場」という言葉に2つの意味を込めました。ヨーロッパでは「広場」は街の中心にあります。そこには教会があり、市場があり、人が不断に行き来しています。「広場」は街の中心であり、そこを起点として人々が移動します。図書館も大学の中心に位置し、図書館からその周辺に位置する講義棟へ学生が講義やゼミに行くことをイメージしています。また図書館の前方には生協があり、後方には学生会館があります。これらを渡り廊下で連結すれば、いま以上に動線が明確になります。「広場」のもつ場所と場所とを連結させるイメージを「広場」という言葉に込めました。もうひとつは、学生の居場所としての「広場」という意味です。図書館が大学の中心に位置するのは、場所としての中心を意味するだけではありません。大学のなかで図書館が人と人とを繋ぐ役割を果たしてほしいという意味を込めました。大学に学生の居場所が少ない、という理由もありますが、図書館のなかでは静かに学習するだけでなく、休息する場所や友人と語らう場所があってもいいのではないかと思うのです。屋上庭園や多様なスタディールームはそ

ういう発想から考案しています。学習が基本ですが、その周辺に多様な空間を作ることモチーフにしました。

それではフロアプランに即して、新図書館の特徴を少し具体的にお話します。

第1に、書庫はすべて開架書庫にします。現在は安全性を考慮して、書庫の一部は閉架書庫にせざるをえないのですが、「読みたい本は自分で探す」ことをモットーにすべて開架書庫にします。

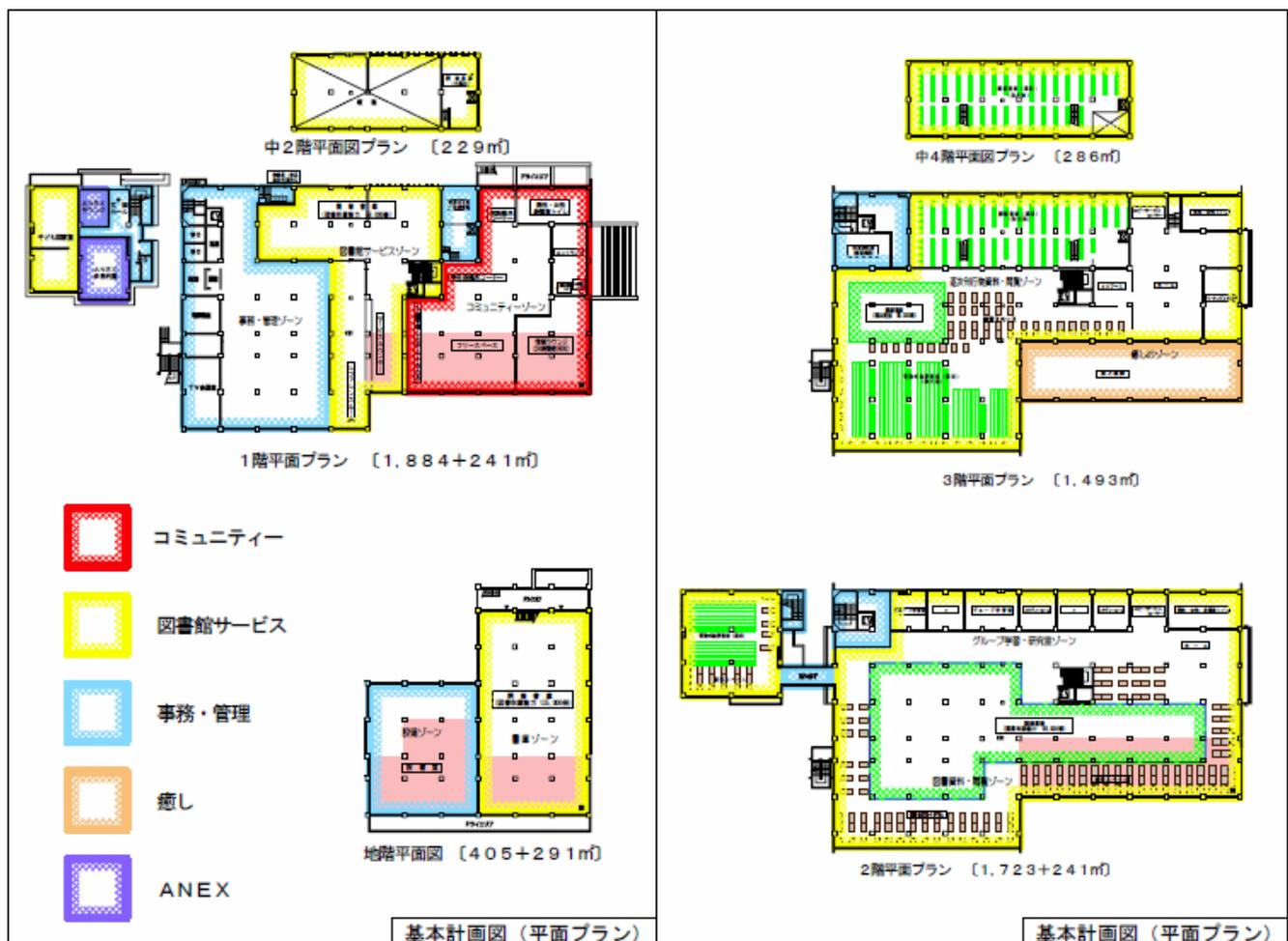
第2に、1階部分を全面的に改装します。1階を(1)情報ラウンジゾーン、(2)フリースペースを中心にしたコミュニティーゾーン、(3)図書館サービスゾーン・事務管理ゾーンの3つに区切ります。情報ラウンジゾーンは、現在3階にあるパソコンルームをここに移動し、24時間対応のパソコンルームとします。コミュニティーゾーンは常設展示コーナーおよびフリースペースとして使用し、イベントのないときには新聞・雑誌をブラウジングできる交流空間とします。その後方にサービス・カウンターを置き、その背後に事務管理ゾーンを置きます。現在のサービス・カウンターは、資料の貸し出し業務以外に各種のコンサルティング業務を並行して行っていますが、如何せん手狭なため利用者に満足いくサービスができていないかもしれません。それを改善するためにも、各種のコンサルティング業務を含めたサービス・カウンター業務を拡大したいと考えております。

第3に、2階部分の閲覧室の構造を抜本的に変えます。現在は、開架書庫の部分と閲覧室が完全に仕切られ、また大きなグループ学習室が南側に位置しています。しかし図書の収納能力を上げるためにも、書架は2階フロアの中心部に持ってきて、その周辺部に閲覧スペース、スタディールーム、ワーキングスタジオなど多様な空間を配置する構造にします。そうすることで、自然光が入る南側に閲覧スペースが出来ますし、スタディールームやワーキングスタジオで周囲を気にせず議論や作業をすることができます。スタディールームも部屋の大きさを個室から10人程度が利用できる部屋を作って、ゼミもそこでできるようにすれば、必要な資料がすぐ手に入るという利点

があります。

第4に、3階の雑誌室を資料室にします。現在、図書館で購入する教養系の和洋雑誌以外に、学部の一部の講座・学科から申し出があって新着の外国雑誌等を図書館に配架しています。また図書館では資料の集中管理計画が進行しています。講座・学科から不要な外国雑誌等が図書館に相当数戻ってきています。それらのなかで利用頻度が高い資料を配架して資料の共同利用を促していきます。少し快適な環境を作って、院生・教員のための資料室を作りたいと考えております。

附属図書館の施設基本計画はようやく出来上がりました。計画自体、まだまだ改良の余地のあることは知っております。しかし学習図書館としての附属図書館のハード面の長期計画はひとまずできたと思っております。改修までに時間のかかる事業ですが、計画なくして実現なしです。実現に向けて着実に歩を進めてまいります。以下に、フロアプランを示します。学生および教職員の皆様の忌憚のないご意見をお願いします。



基本計画図 (平面プラン) の詳細は、山梨大学附属図書館ホームページ [図書館概要] 一覧の「附属図書館施設基本計画」 (<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/outline/shisetsu.pdf>) でもご覧いただけます。

『 図書館のすすめ 』

大学院医学工学総合教育部
物質・生命工学専攻 修士課程1年次生

ツナトリ ツヨシ
綱取 剛

大学生活を送る中で、図書館を利用することが多々ある。その一つは、授業でレポートが出ているときである。学部生の時は教室というものが無いからみんなでレポートをする場所といえば図書館だった。ここならグループ学習室があるので、みんなで協力しながらレポートが出来るし、わからないことがあったらすぐに適切な資料がいくつかあるし、コピー機もあるし、夏は涼しいし、冬は暖かいし。まあ、そういったことで図書館は、とても重要な場所のひとつである。

そのほかで利用するといったら、テスト前に勉強をするときである。テスト前には開館時間を延長してくれるのでとても助かる。山梨大学の図書館は一人で集中して勉強できる場所と、グループで学習できる場所が分かれているところがとてもすばらしい。テスト前になると、みんなでどこからか入手したテストの過去問を見てヤマを張りながら勉強したものだ。またそうでもなく、勉強にすぐに飽きてダラダラとしゃべっていたりしたような気もする。そんな良き思い出も図書館があってこそのものである。

大学院生になってからもよく図書館を使う。最近はインターネットで何でも検索できる便利な時代ではあるが、そうはいつでも専門的な分野はなかなか載ってないことが多い。改めて気がついたことであるが大学の図書館にはそこら辺の本屋にはないような各分野の専門書が多い。以上のようなことを考えると、みんなもっと図書館に感謝すべきであると思うとともに、もっと図書館を利用すべきであると思う。

『 あらためて 図書館を利用して 』

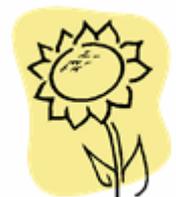
附属病院看護部(看護師) ,
大学院医学工学総合教育部
看護学専攻 修士課程1年次生

コイケ ヒデミ
小池 英美

私は、今年、大学院修士課程に入学しました。日中は、山梨大学医学部附属病院で看護師として、患者さんやその家族と関わっています。仕事と勉強の両立ができるか心配でしたが、師長や病院の仲間の協力や励ましにより頑張ることができています。

看護師で働いているときには、図書館を利用することは、ほとんどありませんでしたが、大学院に入学してからは、課題に取り組むためには、多くの文献を参照することが欠かせず、図書館の重要性を再認識しています。日中、働いているため、なかなか開館時間内に図書館を利用することが難しいのですが、電子ジャーナルを利用することで、時間と場所を選ばず、文献検索ができ、とても助かっています。開館時間外に図書館を利用できるサービスを申請することで、夜間や週末にも利用することができ、自分の都合の良い時間帯に図書館を利用できることはとても魅力的なことだと思います。そして、何よりも、図書館のみなさまが、図書館の利用方法を説明してくださる時や、文献の複写・取り寄せの時など優しく親切にしてくださることがとてもありがたいです。

図書館を有効に活用し、今後の看護の質向上に資することのできる質の高い修士論文を作成していきたいです。



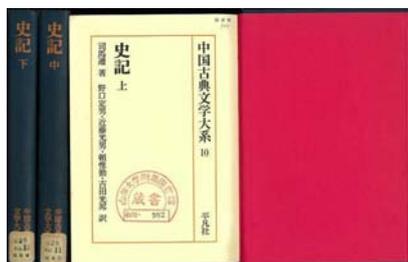
『 史 記 』

司馬遷著 平凡社（中国古典文学大系）

工学部附属クリスタル科学研究センター
（結晶構造エンジニアリング研究部門）キノムラ ノブカズ
木野村 暢一

年をとってからまた読んでも面白い本ということから、司馬遷の「史記」をすすめたい。この本は漢の正史として二千年以上も前に書かれたもので、伍子胥、項羽あるいは劉邦といった日本でもなじみの英雄が登場するのは当たり前のこととして、金貸し、やくざ、さらにはいろいろなタイプの悪女までが、その時代を生き抜き作った一人の人間として描かれている。紙もまだない時代なので、竹片あるいは木片に大切にそして慎重に言葉を選んで書いたものと想像される。そのためか、事実と思えることを淡々と述べ、表現はそっけないほど簡潔であるのに、時には何気ない素振りや表情も交えられており、その場の情景を思い描くに苦労はしない。

竹片か木片か知る由もないが、全部集めて積み上げればどのくらいの量になるかと思うとき、ものの不自由な時代に大部の書を著した著者のエネルギーに驚かされる。さらに、屈辱的な刑を受け、生き恥をさらしながら書き進めたことを知るにおよんで、その執念の深さはなんだろう、どうしてそこまでやる必要があったのか、考えてしまう。内容もさることながら、著者の生き様にも興味もたれる。この本のもうひとつの特色は、それぞれの事柄について述べた後、著者のコメントが加えられていることである。それに倣って、コメントして筆を置くことにする。確かに便利な世の中になってはいるが、二千年以上という時を経ても人間の中味はあまり変わっていないのではないか。

所蔵案内：『史記』
本館2階 一般書架
分類：928『「やりたいこと」が
わからない人たちへ』

鷺田小彌太著 PHP研究所（PHP文庫）

医学部看護学科
地域・老人看護学講座イイジマ スミオ
飯島 純夫

図書館から「学生にすすめる本」を推薦して欲しい旨の依頼があったとき、二つ返事で引き受けてしまった。しかし、さてどの本にしようかと考え始めたとき、とても大変なことを引き受けてしまったことに気づいた。つまり、普段は推理小説の類を読むことが多いので、何を学生諸君に推薦してよいのやら皆目見当がつかなかったのである。そこで所蔵している過去に読んだ本の中から選ぶことにした。しかし、これがまた大変な作業で、帯に短し襷に長しといったものが大部分なのである。しかし、乱暴な言い方をすれば、どんな本でも必ず何かの役に立つのである（と自分では思っている）。だから、小説でも専門書でもハウツーものでも何らかのためになるのは間違いない。

いろいろと考えた末、鷺田小彌太著『やりたいことがわからない人たちへ』（PHP文庫）を選んだ。この本は昨今増えていると言われる「やりたいこと」がわからない人たちへのアドバイスとも言える本であり、副題に「人生にとって「仕事」とは何か？」とついていることからわかるように、これからの自分の仕事を行っていくための指針になると思われる。著者は『大学教授になる方法』（1991年、青弓社）で有名になった哲学者で、その後もたくさんの本を書き続けている。今回インターネットで検索してみたところ136冊もヒットした。『自分のやりたいことを見つける技術』（2000年、ダイヤモンド社）も類似の本である。私もこの著者の本を何冊か過去に読んで、人生の指針にもなったので、学生諸君におすすめてほしいと思う。

所蔵案内：『「やりたいこと」が
わからない人たちへ』
医学分館2階 第2閲覧室
分類：159

1 図書館利用統計(H17年度)

(1)開館日数・入館者数

区分	開館	入館者数(人)		
	日数	学内者	学外者	合計
本館	265日	113,503	2,532	116,035
分館	287日	120,964	496	121,460

(2)館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査 件数
	学生	教職員	学外者	合計	
本館	19,427	1,532	474	21,433	3,062
分館	11,176	2,152	544	13,872	3,283

(3)相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	337	322	2,870	2,283
分館	150	60	4,592	5,151
合計	487	382	7,462	7,434

(4)子ども図書室

開館日数	121日
入室者数	2,175人
貸出券発行人数	118人
蔵書冊数	2,412冊
貸出冊数	2,528冊

2 図書館蔵書統計

(1)図書・雑誌蔵書数(H18.3.31現在, 電子ジャーナルはH18.4.1現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)			電子ジャーナル (タイトル数)
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計	
本館	345,789	130,805	476,594	6,782	2,207	8,989	—
分館	52,655	48,023	100,678	2,036	1,443	3,479	—
合計	398,444	178,828	577,272	8,818	3,650	12,468	6,752

(2)図書・雑誌受入数(H17年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	6,061	972	7,033	2,269	254	2,523
分館	2,696	1,488	4,184	523	393	916
合計	8,757	2,460	11,217	2,792	647	3,439

3 電子ジャーナル統計

電子ジャーナル(2005/1~2005/12) fulltext ダウンロード件数

Science Direct (Elsevier)	70,653	Cambridge University Press	1,700
Springer Link (旧Kluwer 含む)	6,765	Oxford University Press	4,646
Blackwell Synergy	9,582	Nature	14,084
Wiley InterScience	10,022	Science	3,793
Karger	1,988	American Physical Society	1,701

附属図書館情報リテラシー教育の実施について

● 本館

附属図書館では、従来から新入生を対象として、図書館の施設、利用方法等について説明する「図書館利用ガイダンス」を前期開始と同時に実施してきました。図書館サービスは現在多様化し、冊子資料に加え電子図書館機能が強化されています。学生の皆さんもレポート作成や卒論作成時には電子的ツールも有効に利用していただくことを目的として、各先生方のご協力により、昨年度教育人間科学部、医学部の情報関係必修講義内で実施していた情報リテラシー教育の検索実習を、今年度から全学部1年生で実施しています。

すでに1年生全体の半分の学生が受講しましたが、「レポートを書くときには役立ちそう。」「図書館でいろいろな情報が手に入ることがわかったのでぜひ活用したい。」等、意欲的な感想が寄せられています。

また、今年度は卒論生、大学院生を対象とした「研究論文の探し方：実習」を5月19日（金）、26日（金）に実施し、135名の学生が受講しました。



● 医学分館

今年度は新たに医学部医学科3年次生の講義において「医学情報」と題し、インターネットを利用した医学情報の検索と全文情報の入手についてガイダンスを実施しました。より実践的な情報リテラシーを身につけてもらうため、学生自身もパソコンを操作しながら、MEDLINE等のデータベース検索や電子ジャーナルなどの利用演習を行いました。学生からは、「論文を読むことは必須だと考えているので将来に役立った」「実際にコンピュータで検索方法を体験できて身についた」といった感想がありました。

そのほか、医学部看護学科1年次生の「学部入門ゼミ」、大学院1年次生や新採用職員など学部と連携したガイダンスを今年も実施しました。



今後のイベント紹介



講座

平成18年度 山梨県・山梨大学連携事業

子どもと絵本・連続講座（全5回）の開催のご案内

子ども図書室では、「地域の子供達への読書活動」を推進していく目的で、絵本作家や児童文学者を招いて講演会を開催してきました。今年度は山梨県・山梨大学連携事業の一環で、山梨県教育委員会と山梨大学の共同企画により、「子どもの読書活動推進スキルアップ講座」として「子どもと絵本・連続講座」（全5回）を開催します。

第1回 講座「子どもの自分づくりと絵本・児童文学の世界」(実施済み)

6月21日（水）14:00～16:00 中央市立玉穂生涯学習館

講師 山梨大学教授 加藤 繁美 氏

6月24日（土）～7月24日（月）
山梨大学附属図書館子ども図書室にて、
開室時間中「しかけ絵本展」を開催

第2回 講演「誰でもつくれる！！ おもしろアイデア絵本」(定員に達しました)

7月22日（土）13:00～15:00 山梨大学教育人間科学部J号館5階多目的室（甲府キャンパス）

講師 絵本作家 木村 研 氏

絵本作家であり、手作りおもちゃの研究者としても活躍している木村研氏に、しかけ絵本等について講演を行っていただきます。当日は、簡単なしかけ絵本の作り方も実技で教えていただく予定です。

第3回 講座「読み聞かせ実践講座(仮)」

9月13日(水) 14:00~16:00 山梨県立文学館
講師 図書館ボランティアやまなし代表 齊藤 順子 氏

第4回 講演「絵本の育て方 -絵本を読むこと、作ること-(仮)」

11月15日(水) 14:00~16:00 甲斐市立竜王図書館
講師 絵本作家 いとう ひろし 氏

第5回 講座「絵本の世界と性 -心・いのち・ジェンダー-(仮)」

平成19年1月16日(火) 14:00~16:00 笛吹市立石和図書館
講師 山梨大学助教授 秋山 麻実 氏

主催

山梨大学附属図書館子ども図書室
山梨県教育委員会社会教育課

○事前にお申し込みが必要です。
定員に達した時点で締め切ります。

お申込み・お問い合わせ先

山梨県教育委員会社会教育課
社会教育振興担当

〒400-8504

甲府市丸の内一丁目6-1

TEL 055-223-1771 FAX 055-223-1775

E-mail:shakaikyo@pref.yamanashi.lg.jp



講演

山梨大学附属図書館・近代文学文庫展示室開室記念講演会 「本を語る」

日時 : 平成18年10月14日(土) 14:00~17:00
場所 : 山梨大学教育人間科学部J号館5階A会議室(甲府キャンパス)
講師 近藤 信行 氏(山梨県立文学館館長, 作家・文芸評論家)
野山 嘉正 氏(放送大学教授)
谷川 恵一 氏(国文学研究資料館教授)

本館では近代文学文庫の常設展示室を開設した記念に、この文庫について、また近代文学についての講演会を開催します。



講演

山梨大学附属図書館医学分館・生と死のコーナー関連事業 遺族の悲嘆とグリーフケア

「ちいさな風の会」(子を亡くした親の会)での18年の実践を中心に

日時 : 平成18年10月25日(水) 18:30~
場所 : 山梨大学医学部臨床小講堂(医学部キャンパス)

講師 若林 一美 氏(山梨英和大学人間文化学部教授, 「ちいさな風の会」世話人)

医学分館では今年度の生と死のコーナー関連事業として、子を亡くした親の会「ちいさな風の会」の世話人をされている山梨英和大学人間文化学部教授、若林一美氏の講演会を開催します。病気や事故、自死によって大切な人を失った家族の悲嘆(grief: グリーフ)と移りゆく悲しみを支えるグリーフ・ケアについて講演していただく予定です。

イベント詳細については、ポスター、パンフレット及び山梨大学附属図書館・医学分館のホームページでお知らせいたします。ご期待ください。

お知らせ

■ 学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般社会人の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp>をご覧ください。か、本館 Tel:055-220-8066(情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357(医学情報グループ)にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第4巻第1号

2006年7月1日 発行

編集: 館報編集委員会

発行: 山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063

●表紙撮影: 図書課医学情報グループ職員 河合 大
場 所: 医学部キャンパス 看護学科棟前